（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	西紋こども発達支援センター（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和6年10月9日		～	令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	42	（回答者数）	27
○従業者評価実施期間	令和6年10月9日		～	令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職（言語聴覚士・作業療法士・保育士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等）を配置しており、専門的な支援ができる。	・内部研修、外部研修の機会を積極的に設けて、日々、研究などが進んでいる支援方法やアセスメントに対応できるようにしている。また、実習の機会なども設けて、職員が他の機関で学んだことを取り入れている。 ・道立旭川子ども総合療育センターの地域療育支援等も活用することで、専門性の向上や欠けている専門職を担ってもらっている。	・現在行えている研修等は継続しつつ、新たなアセスメントや支援方法など、最新の情報を療育に取り入れていく。また、職場内での研修も充実させて、新たな職員の成長につながるよう整備していく。
2	・利用児1名に対し、必ず職員が1人以上担当することで、療育や保護者等からの相談に対応できるようにしている。	・利用児童の状況によって、療育形態やグループメンバーなどを選定し、より効果的な療育につながるよう配慮している。また、専門的な支援が必要な場合は、担当職種も検討している。	・利用児童が増加傾向にあり、新たな職員の確保を行い、現在の療育を継続して行えるよう取り組んでいく必要がある。
3	・療育体験会を開催することで、療育について知ってもらい、通所後の不安を軽減できるように取り組んでいる。そのため、療育に対する抵抗感が薄れ、必要な支援を受けられる方が増えている。	・体験する児童の状況や年齢なども加味し、療育体験会のメンバーを確定している。	・相談対応できる職員が増えることで、開催回数の増加や日程の調整がスムーズになる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員数については、運営上の基準は満たしているが、利用児童の増加や地域の小学校や就学前施設等からの相談なども増えている。	・支援を必要としている児童が増加していることと、療育以外の業務も受けることで、幅広く支援の手が届くように対応しているため。	・療育に支障をきたさない範囲で、支援を必要としている児童になるべく対応できるように職員体制の見直しや、取り組める体制づくりを検討している。 ・道立旭川子ども総合療育センターからの地域療育支援等のさらなる充実を図れるとよい。
2	・利用児童増加に伴い、グループ編成が難しくなってきている。	・年齢や支援目標などを総合的に考えて、よりグループとしてのメリットが高まるように編成を行っているため、一日がかりで編成を行うことになってしまう。	・療育の効果を最大限に発揮するためには必要な過程と考えているため、職員それぞれの意見を加味し、保護者等と相談して、編成を行っている。
3	・送迎などは行っていないが、仕事を行っている保護者も多いため、少なからずニーズはある。	・保護者も一緒に通所してもらい、療育を見てもらうなどを目的としている。保護者からの相談対応や日常の様子の共有がスムーズに行えると考えている。	・前述の理由により、保護者も一緒に通所して頂くなどのメリットを活かした運営を継続していきたい。